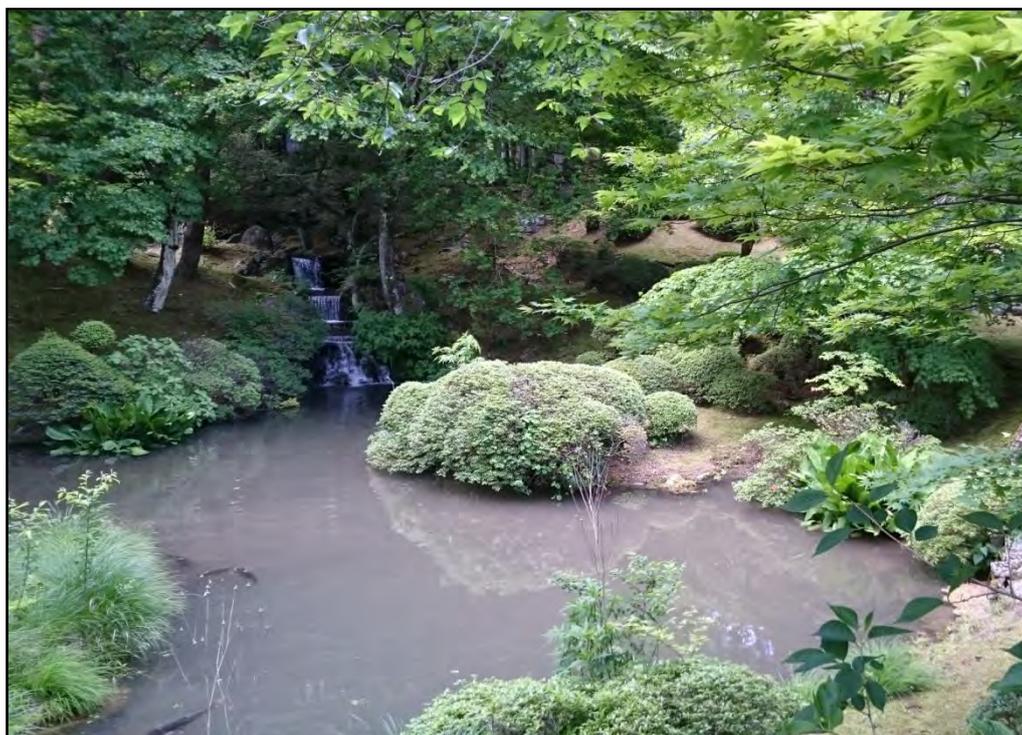


# 地域医療連携室通信



<日光東照宮にて>

## ◆◆◆ 目次 ◆◆◆

- 1P . . . . . 表紙・目次
- 2P-3P . . . . . PDについて、職員会行事活動報告
- 4P-5P . . . . . 北彩都病院 外来の紹介
- 6P-7P-8P . . . . . 北彩都病院診療技術部 リハビリテーション課の紹介  
50周年記念 -北彩都病院ギャラリー展示 Part2-

### ◆基本理念◆

私たちは、最良の医療と介護サービスを通して社会に貢献し、地域の皆様と共に歩み続けます。

### ◆基本方針◆

- 1) 患者・利用者の皆様の権利と尊厳を守ります。
- 2) 知識と技術の向上に努め、良質なサービスを提供いたします。
- 3) 安全・安心な治療と療養が出来るよう努めます。
- 4) 職員一人ひとりが成長できる魅力あふれる職場環境をつくります。

## \* PDについて



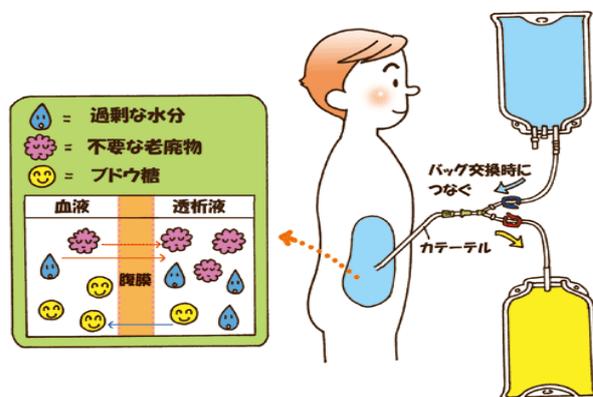
医療法人仁友会北彩都病院  
腎臓内科 平山智也

慢性腎不全が進行したら腎臓の代わりにする治療法が3つあります。

腎不全を治すのではなくてあくまで代わりにするだけなので、ずっと継続しなければなりません。この3つをまとめて腎代替療法という名前がついています。現時点では血液透析、腹膜透析(PD)と腎移植の3つの方法があります。今日は、腹膜透析(PD)について簡単にお話をしておきます。

日本で腹膜透析を受けている患者はいま1万人を割るくらいです。当院では30名前後です。

腹膜透析のイメージがわからないと思いますけど、図のようにお腹に手術で管(カテーテル)を入れます。体表部に穴をつくりませんが、おへそのような感じで人工肛門よりはずっと目立たないものです。お腹の中には胃とか腸とか肝臓などの臓器がありますが、腹腔と呼ばれている何も無いスペースというのが結構あります。このスペースにビニールの管を通して体外からきれいな水(透析液)を入れます。点滴と同じように流れてきて、腹腔の中に透析液が1~2L入ります。注液バックを外して、チューブにふたをして3時間ぐらいおいておくと、あら不思議、このきれいな透析液にお腹の壁(腹膜)から水とか老廃物が溶けだしてきます。バックが身体につながっていないときは自由に行動ができます。6時間ぐらいたった頃に、今度は空のバックを体表面のチューブに接続(清潔操作が必要です。)すると、お腹の中から余分な水と老廃物を含んだ水が勝手に出てきます。余分な水も出てくるわけですから原則的には入れる量より出てくる量の方が多いことになります。それを1日2~4回くらい繰り返すと、身体の中の余分な水分と老廃物がこの操作でゆっくりと除去されていくという方法です。



この水を出したり入れたりする操作回数や貯留時間は残された腎機能とかライフスタイルに合わせて変わります。一般的には1回1~2Lを3~4回で、透析液の出し入れの操作が1回30分くらいです。教科書には腹膜透析の特徴の1つとして「社会的活動が可能」と書いてありますが、毎日2時間くらい時間を取られてしまいます。また、透析液交換用の専用スペース(清潔な空間が望ましい。)が自宅や職場など交換を行うそれぞれの場所で必要になります。

この治療のよいところは自宅のできる通院が月に1~2回ですむところです。自宅で自分もしくは介助者が全部操作しますが、管をつける操作は清潔操作といって、念入りに手を洗うなどのお作法が必要になります。患者さんにも接続操作や接続装置の管理方法のお勉強が必要になりますが、病院の嫌いな方には向いていない。高齢で通院が困難な方には向いています。とくに、高齢の方は食事量も少なく、除去するものも少ない方はずですから、効率の悪い腹膜透析でも十分な方が多

いです。血液透析とは違って治療するたびにフラフラになるようなこともないし、針を刺されることもありませんから、生活の質の改善という意味ではよいかもしれません。

1つ困るのは腹膜透析は腹膜が劣化するために長期間継続できないということです。もともとただの膜に腎臓の代わりにやらせているのですから、無茶な話ですが、余分な水を引き込む目的で透析液が糖分を含んでいて浸透圧が高いために、それにさらされ続ける腹膜がボロボロになります。人にもよりますが大体4～5年を目安にしてほかの方法（血液透析、血液透析・腹膜透析併用療法、腎移植）に変更することになります。

## ★ 職員会行事活動報告

去る7月29日(土)、春光台キャンプ場にて職員会行事のバーベキューが開催されました。

当初、当麻でのキャンプ開催に向け、バーベキューハウスやコテージの準備を着々と進めていたところ、残り1週間にしてまさかの一報。

### クマ出没



当麻キャンプ場周辺施設が閉鎖となり、急遽100人規模の収容可能な場所探しに奔走することに。

何とか春光台キャンプ場を確保！係の皆様の素晴らしいチームワークにより無事開催となりました。

宿泊はできず、日帰りの行事となりましたが、子供連れのファミリー参加、勤務後の職員も加わり、大盛況でした。



# 北彩都病院 外来の紹介

外来看護師 橋本 昭枝

## 部署目標

- 1) 患者の視点に立ち、質の高い看護を提供する
- 2) 品行を意識した接遇と、思いやりのある看護を提供する
- 3) 報告・連絡・相談を意識し、チームの輪を大切にする

## 2017 年外来の スローガン

目配り・気配り・心配りで患者の心を掴む



### <外来スタッフ数>

看護師：常勤6名 パート6名

助手：パート2名 医師クラーク：4名

## 外来診療日程表

科	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
泌尿器科①	金子	増井	増井	山口	石田	徳光	金子	石田	増井	金子
②	山口	徳光	徳光		山口		徳光		徳光	大山
③	大山									
内科①	平山	植竹	豊島	豊島	和田	橋本	和田	和田	植竹	豊島
②	植竹		平山		橋本		橋本		平山※	
健診			安済		安済				松木/佐々木※	
PD科			平山				平山			
血管外科	田中						田中			
消化器外科			検査のみ	海老澤	海老澤			海老澤	海老澤	
糖尿病内科	出張医	出張医					出張医	出張医	出張医	
整形外科						板谷※				

※内科:第1・3週午前:平山Dr 第2週午前:松木Dr 第3週午前:佐々木Dr

※整形外科:第2・4週は出張医

当外来には、泌尿器科、内科、PD 内科、健診、糖尿病内科、血管外科、整形外科、消化器外科など多くの科があり、毎日 150 名前後の患者さんが受診されています。

2017 年 1 月には消化器外科の海老澤良昭医師が入職し、4 月に消化器内視鏡検査室を開設しました。現在は火曜日の午前に検査を行い、上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）や、下部消化管内視鏡検査（S 状結腸までを検査するショート大腸検査）を行っています。

看護部長や感染管理認定看護師の協力を得ながら、外来看護師 2 名ずつ内視鏡検査の前処置、機械による洗浄方法を習得し、同時にマニュアルを作成しました。



デモストレーションの様子 ～感染管理認定看護師の指導を受けながら洗浄方法の勉強中～

外来では消化器科の経験者が少ないため、勤務終了後にデモストレーションを行い、検査の流れ、前投麻酔薬の使用法、スコープの洗浄方法などを学び、ローテーションで消化器検査の業務を担当できるようにしています。

検査は午前 9 時 30 分から 10 時より開始し、約 2 時間で 5 件位行うことが可能です。経鼻、経口のスコープが各 1 台、大腸のスコープは 2 台あります。洗浄機は一度に 2 台ずつ洗浄ができます。9 月からは月 1 回第 2 水曜日の午後に、旭川医科大学病院第 3 内科の医師に出張していただき、全大腸検査が開始となります。海老澤医師は肛門外科が専門のため、最新の電子肛門鏡を新たに購入して診断を行っており、大変好評です。

外来看護師は未経験の消化器科、肛門科の分野に対応するため、スタッフみんなで勉強しながら業務が円滑に流れるようマニュアルの作成、処置の介助などを行っています。

また、泌尿器科では今年の 4 月から旭川医科大学病院の研修医が交代で勤務となったため、診察や処置も増えて、外来待合室は毎日活気にあふれている状況です。

日毎に患者さんが増え、ますます煩雑化する業務の中で、私たち外来スタッフは「目配り・気配り・心配り」を忘れずに、安全・安心で思いやりのある看護を提供するよう努めております。



胃カメラ検査中



使用前点検

## ✳ 北彩都病院診療技術部 リハビリテーション課の紹介

リハビリテーション課 主任 大畑 眞澄

### ✳ リハビリテーションとは

Rehabilitation（リハビリテーション）の語源はラテン語で  
re（再び）+ habilis（適した）+ ation（状態にすること）で

「再び適した状態になること」「本来あるべき状態への回復」することを意味しています。

当院のリハビリテーション課は、理学療法士（PT）5名・作業療法士（OT）1名・言語聴覚士（ST）2名の計8名のスタッフで構成されています。なぜPT・OT・STと呼ばれているか？

理学療法士（理学療法）：Physical Therapist (Therapy) = PT

作業療法士（作業療法）：Occupational Therapist (Therapy) = OT

言語聴覚士（言語聴覚療法）：Speech Language hearing Therapist(Therapy)= ST

（以下リハビリテーション=リハビリ、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士はPT・OT・STと表記）。

### ✳ リハビリテーション課の仕事

当院では、PT・OT・ST 医療専門担当者が透析療法を受けている入院・外来患者に対し、腎臓リハビリ（内部障害リハビリ）を中心に行っています。対象は、内科（腎臓内科、高血圧、高脂血症、糖尿病など）、整形外科、泌尿器科、血管外科、消化器外科・こう門科などの科を受診されリハビリ指示が出されます。

リハビリは、透析療法以外に脳血管障害後遺症、呼吸器疾患、心疾患、整形疾患（骨折・腰痛など）、血管外科術後などの原因により生じた機能障害や生活上の困難に対する治療も行います。

### ✳ 腎臓リハビリテーション

腎機能障害を対象としたリハビリは、医師による医学的管理のもと実施されます。

透析を受けていると腎性貧血・筋力低下・易疲労性となり活動量が減少、安静時間が長くなることで廃用症候群（身体の不活動によって起こる二次的障害の総称）に陥ることがあり、生活の質の低下などが認められます。リハビリを行うことで廃用症候群を予防・改善させ生活の質の向上につなげることが重要です。透析を受けている方々や家族に対して、医療専門職・保健福祉・教育・心理機関などと連携し、社会復帰、自分らしい生活を送ることが出来るように援助を行っています。

もう少し詳しくリハビリテーション課（PT・OT・ST）の仕事を説明します。





**理学療法とは：**身体に障害のある方や障害が発生する可能性のある方に対して、運動療法・物理療法を用いて関節可動域の拡大・麻痺の回復・筋力増強・疼痛緩和・基本動作能力の維持や向上を図りその方らしい生活を営むことが出来るよう援助する仕事です。当院は、透析療法を受けている方が多いのが特徴です。近年、透析療法を行いながら運動療法を行うことで、生命予後延長、心血管疾患の予防、透析効率の増加など効果があるとされています。PTは、患者の生活の目を向け、日常生活の自立度向上・生活の質の改善を図るとともに**健康寿命の延長**を目指し日々活動しています。

**作業療法とは：**病気や怪我で心身機能が低下した方に対し、その人らしい日常生活動作の維持・改善を目的に様々な作業を用い援助を行います。PTと同じように関節可動域、筋力増強、基本動作能力などの身体機能の維持改善を図りますが、動作の回復だけでなく自分らしい生活を取り戻してもらうことが重要です。日常生活に必要な動作とは、食事・入浴・トイレ動作・着替え・家事（洗濯・掃除・料理・買い物など）、運転・交通機関利用・電話・パソコン操作・服薬・金銭管理など・・・人が社会生活するために必要な基本動作・応用動作・活動は沢山あります。社会生活を送るための必要な動作を場面設定し、動作の獲得できるように支援援助をします。



OTは、作業活動を通して、基本動作能力・応用動作能力・社会適応能力の改善を図り、**自分らしい生活を送れること**を目指しています。



**言語聴覚療法とは：**ことば・きこえ・声や発音・食べる機能、他の障害のある方に対して問題を明らかにし必要に応じた治療・援助を行います。これらの障害は、生まれながらの先天性、発達上の場合と後天的な病気や怪我などの場合により言語、聴覚、発音器官、嚥下機能が損なわれることがあります。STは、ことば（言語機能）・きこえ（聴覚）・声や発音（構音障害・音声障害）によるコミュニケーション、食べる機能（摂食・嚥下障害）、その他の問題に対して専門的は評価・治療・指導・助言、援助を提供します。

当院は、**安全に食事をとる・日常コミュニケーション活動を円滑に**図れることを目指しています。

## ✳ 当院リハビリテーションの方向

今後、リハビリテーション課は腎臓リハビリ（内部障害リハ）を中心に「健康寿命の延長と生活の質の改善」目指すために、リハビリ教室、透析療法中のリハビリ、予防リハビリ、がんのリハビリ、生活行為向上マネジメント実用化に向けて活動していきます。



北彩都病院のリハビリは  
平日の

8：40～12：00  
13：00～17：00

に実施しています。  
（土日祝は休みです。）

外来リハビリもやっています。  
是非、お問い合わせください。

## ✳ 50周年記念 - 北彩都病院ギャラリー展示 Part2 -

地域医療連携室連携室通信第11号でもお伝え致しましたが、北彩都病院1階ギャラリーにてパネル展示を行っております。第2段は「腎臓の働きについて」です。



すでに足をお運びいただいた皆様も多くいらっしゃると思いますが、お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。



## ✳ 発行 ✳

医療法人仁友会 北彩都病院 地域医療連携室 広報誌「地域医療連携室通信」編集事務局

〒070-0030 旭川市宮下通9丁目2番1号

Tel 0166-26-6411(代表) Fax 0166-26-6417(直通)